

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 26 年 2 月 19 日 午後用

第 65 回 獣 医 師 国 家 試 験 実 地 試 験 問 題 (D)

注 意 事 項

1. 試験問題は、60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき二つ以上解答した場合には、そのうちの 하나가正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 日本国で獣医師国家試験事務を受け持っている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案の作成に当たっては、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡が残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないので注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、5歳齢。昨晚から前後肢とも麻痺し歩行不能となったとの主訴で来院。神経学的検査では前後肢ともに上位運動ニューロン兆候が認められたが深部痛覚は存在した。〔図1-A, B〕は頸部MRI T2強調像（A：矢状断像、B：横断像）である。

別冊 D
図 1-A, B

問1 病変部位はどれか。

1. C1 - C2 間
2. C2 - C3 間
3. C3 - C4 間
4. C4 - C5 間
5. C5 - C6 間

問2 本症例に対する治療と予後に関する記述として最も適切なのはどれか。

1. 腹側スロット術が適応となり、適切に実施されれば良好な予後が期待できる。
2. 手術禁忌であり予後不良である。
3. 背側椎弓切除が適応となり、適切に実施されれば良好な予後が期待できる。
4. 放射線治療が有効であるが、予後には注意が必要である。
5. 椎体固定術が適応となり、適切に実施されれば良好な予後が期待できる。

課題2 次の文を読み、問3、問4に答えよ。

養殖ブリの体表に矢印のような膨隆患部が現れ〔図2〕、切開すると白色の膿が流出した。

別冊D

図2

問3 最も疑われる疾患はどれか。

1. 類結節症
2. せっそう病
3. エドワジエラ症
4. 滑走細菌症
5. ノカルジア症

問4 本疾患およびその病原体に関する記述として正しいのはどれか。

- a 病原体はグラム陰性菌である。
- b 分離には小川培地を用いる。
- c ブリでは躯幹結節型と鰓結節型がある。
- d 予防にワクチンを用いる。
- e 抗生物質による治療は有効ではない。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 3 次の文を読み、問 5、問 6 に答えよ。

犬、雑種、雄、10 歳齢。昨日から排尿困難となり、元気・食欲が低下したとの主訴で来院。初診時、肛門右側の腫脹がみられた。〔図 3 - A, B〕は尿道内にカテーテルを挿入しておこなった尿路造影 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D
図 3 - A, B

問 5 画像所見として適切なのはどれか。

1. 膀胱の変位
2. 尿道破裂
3. 尿管開口部の異常
4. 尿道の拡張
5. 前立腺の腫大

問 6 次におこなうべき検査、処置として適切でないのはどれか。

1. 腎機能の評価
2. 水分・電解質バランスの補正
3. 膀胱へのカテーテル留置と排尿
4. 状態安定後早期の外科処置
5. 全身麻酔下の CT 検査

課題4 次の文を読み、問7、問8に答えよ。

猫、雑種、2歳齢。頭部を中心とした掻痒を主訴に来院。〔図4〕は病変部の皮膚掻爬検査顕微鏡像である。

別冊D
図4

問7 最も疑われる疾患はどれか。

1. 毛包虫症
2. 皮膚糸状菌症
3. ツメダニ症
4. マラセチア皮膚炎
5. 疥癬

問8 本疾患に対する治療薬として最も効果的なのはどれか。

1. プラジクアンテル
2. アムホテリシンB
3. イトラコナゾール
4. イベルメクチン
5. オキシテトラサイクリン

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

犬、シェットランド・シープドッグ、雌、4ヵ月齢。元気はあるが、食事中に盛んにくしゃみをするとの主訴で来院。身体検査で〔図 5〕のような硬口蓋の異常がみられた。

別冊 D

図 5

問 9 本症例で次におこなうべき検査として最も適切なのはどれか。

1. 成長ホルモンの定量
2. 鼻腔の内視鏡検査
3. 胸部 X 線検査
4. 食道造影検査
5. 心臓の超音波検査

問 10 本症例ではオーバーフラップ法で硬口蓋の修復をおこなったが、手術 4 日後に縫合部が裂開した。考えられる原因として適切なのはどれか。

- a 胃漏チューブを留置せず手術翌日から軟らかい食餌を与えたこと。
- b 縫合に非吸収性の縫合糸を用いたこと。
- c フラップの剥離が十分でなく縫合部に張力がかかったこと。
- d 縫合糸の結紮がきつすぎて縫合部に虚血が生じたこと。
- e 抗生物質の投与が適切でなかったこと。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

牛が発熱、元気消失の後起立不能に陥り急死した。〔図 6 - A 〕は剖検時の脳、〔図 6 - B 〕はホルマリン固定後の脳の断面（矢印は特徴的な病変部位）、〔図 6 - C 〕は脳病変部の組織標本像（HE 染色）である。

別冊 D
図 6 - A, B, C

問11 最も疑われる疾患はどれか。

1. アカバネ病
2. ヒストフィルス・ソムニ感染症
3. リステリア症
4. 日本脳炎
5. 牛海綿状脳症

問12 本疾患に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 年間を通じて発生がみられる。
2. 輸送によるストレスを軽減することで減少する。
3. ルーメンパラケラトーシスが発生に関わっている。
4. 不活化ワクチンが予防に有効である。
5. 治療として発症初期に抗菌剤を大量に投与する。

課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

猫、雑種、雌、7歳齢。急性の呼吸困難と後躯麻痺を主訴に来院。直腸温 37.8℃、呼吸数 60回／分、聴診にて左側心尖部で収縮期雑音と奔馬調律（ギャロップ）が認められた。〔図7-A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D
図7-A, B

問13 最も疑われる疾患はどれか。

1. 甲状腺機能亢進症
2. 猫喘息
3. 腹膜心膜横隔膜ヘルニア
4. 肥大型心筋症
5. 椎間板ヘルニア

問14 後肢の状況として最も可能性の高いのはどれか。

- a 筋肉が硬結・腫脹している。
- b 膝蓋腱反射が著明に亢進している。
- c 肢端が温かい。
- d 疼痛を示さない。
- e 深爪しても出血しない。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

ある養豚場において子豚に〔図 8 - A〕の所見がみられた。とさつ後に鼻を割断したところ、横断面に〔図 8 - B〕の所見が観察された。

別冊 D
図 8 - A, B

問15 最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚丹毒
2. 萎縮性鼻炎
3. 豚マイコプラズマ肺炎
4. 豚アルカノバクテリウム・ピオゲネス症
5. グレーサー病

問16 本疾患に関する記述として最も適切なのはどれか。

1. 原因菌はグラム陰性桿菌である。
2. 重篤な肺炎を誘発し急性経過で死亡する。
3. 後弓反張など神経症状が現れる。
4. 血清学的診断として ELISA が使用される。
5. 予防には弱毒生ワクチンが使用される。

課題 9 次の文を読み、問 17、問 18 に答えよ。

犬、シーズー、避妊雌、12 歳齢。2 日前からの急性の嘔吐と食欲不振を主訴に来院。体温 38.8℃、心拍数 120 回／分、呼吸数 24 回／分、身体検査で右上腹部に圧痛が認められた。血液検査では白血球数の増加（32,000 / μ l）、高血糖（280 mg/dl）、肝酵素活性の上昇（ALT 183 U/l、ALP 2,360 U/l、GGT 21 U/l）、総ビリルビン濃度および CRP 濃度の高値（それぞれ 3.0 mg/dl、8.2 mg/dl）が認められた。腹部 X 線検査では十二指腸の右側変位、超音波検査では総胆管の拡張（直径 6 mm）が認められた。〔図 9〕は右側肋間からの超音波画像である。

別冊 D

図 9

問17 最も疑われる疾患はどれか。

1. 胆嚢破裂
2. 腸閉塞
3. 1 型糖尿病
4. 急性膵炎
5. 門脈体循環シャント

問18 次におこなう検査として最も有用なのはどれか。

1. 試験開腹
2. 食前食後の総胆汁酸濃度の測定
3. 糖化ヘモグロビン濃度の測定
4. 腹部造影 CT 検査
5. 膵特異的リパーゼ活性の定量

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

ウサギ、雌、3歳7ヵ月齢。食欲が低下し以前はよく食べていた牧草を全く食べなくなった、常に口をくちやくちやさせているとの主訴で来院。血液検査と腹部X線検査では明らかな異常は確認されなかったが、身体検査で下顎の周囲が湿っており触診により下顎骨の不正が確認された。〔図 10 - A, B〕は麻酔下で観察した口腔内の様子（A：舌をよける前、B：よけた後）である。

別冊 D
図 10 - A, B

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. 臼歯の不正咬合
2. 口腔内異物
3. 舌腫瘍
4. 菌原性腫瘍
5. 重度歯肉炎

問20 本疾患に対する治療と予想される予後として適切なのはどれか。

1. 治療の必要はなく、自然治癒する。
2. 薬物療法が奏功することが多く、再発はまれである。
3. 薬物療法が奏功することが多いが、再発しやすい。
4. 適切な手術もしくは処置をおこなうことで治癒し、再発もない。
5. 適切な手術もしくは処置をおこなうことで治癒するが、再発しやすい。

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、分娩 60 日後、ボディコンディションスコア 3.0。問診で 1 週前に発情が確認されている。直腸検査で子宮角分岐部付近の左右子宮角直径は、いずれも約 3 cm であった。左卵巢には大型の構造物が触診されたが、右卵巢には特記すべき構造物はなかった。〔図 11 - A〕は膣検査時の様子、〔図 11 - B〕は左側卵巢の超音波検査像である。1 週間後の再検査では、膣検査および直腸検査で大きな変化は認められず、血中プロジェステロン濃度は初診日、再診日ともに 0.3 ng/ml であった。

別冊 D
図 11 - A, B

問21 この牛の初診日の所見として適切なのはどれか。

1. 過肥の状態である。
2. 発情周期は正常に回帰している。
3. 生殖道の炎症が疑われる。
4. 子宮角の太さは正常範囲である。
5. 左側卵巢の構造物は正常な卵胞である。

問22 本症の治療薬として適切なのはどれか。

- a hCG 製剤
- b GnRH
- c PGF₂α
- d エストロジェン
- e PMSG (eCG) 製剤

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

〔図 12〕はと畜場に搬入された牛の末梢血塗抹標本（レビーゲル染色）である。

別冊 D 図 12

問23 この染色法で確認できるのはどれか。

1. 核
2. 莢膜
3. 芽胞
4. 線毛
5. べん毛

問24 と畜検査員の対応として正しいのはどれか。

- a とさつを禁止する。
- b 剖検して確定診断する。
- c とさつして病変部を部分廃棄する。
- d 化製場に運ぶよう指示する。
- e 都道府県知事に届け出る。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雄、2ヵ月齢。突然苦悶して起立不能となり、その後腹部膨満がみられた〔図 13 - A〕。可視粘膜は蒼白で、四肢冷感、黒色タール便の排泄がみられた。〔図 13 - B〕は血液検査結果である。

別冊 D
図 13 - A, B

問25 血液検査結果の解釈として適切なのはどれか。

- a 大球性正色素性貧血
- b 好中球増多症
- c 低タンパク血症
- d 血小板減少症
- e A/G 比の増加

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問26 本症例で最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 出血性腸症候群
- 2. クリプトスポリジウム感染症
- 3. 小型ピロプラズマ症
- 4. 穿孔性第四胃潰瘍
- 5. 牛白血球粘着不全症

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雌、5 ヶ月齢。1 ヶ月前から両側後肢の跛行があり次第に悪化してきたとの主訴で来院。〔図 14〕は初診時の後肢 X 線前後像である。

別冊 D

図 14

問27 この X 線像から最も疑われる疾患はどれか。

1. 前十字靭帯断裂
2. 後十字靭帯断裂
3. 膝蓋骨外方脱臼
4. 膝蓋骨内方脱臼
5. 大腿骨遠位骨端軟骨骨折

問28 本症例に対する外科的治療法として適切なのはどれか。

- a 脛骨高平部水平骨切術
- b 腓骨頭転移術
- c 大腿骨遠位のクロスピン固定術
- d 大腿骨滑車溝形成術
- e 脛骨粗面転移術

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題15 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、雑種、雌、13 歳齢。肝臓および腎臓の機能不全を呈して死亡した。〔図 15〕は心臓の冠状動脈の病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D

図 15

問29 組織所見はどれか。

- a 粥腫形成
- b アミロイド沈着
- c 血栓の再疎通
- d フィブリノイド（類線維素）変性
- e 石灰沈着

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問30 本病変と関連する病態はどれか。

- 1. 心臓の慢性炎症
- 2. 非再生性貧血
- 3. 免疫不全症
- 4. 甲状腺機能低下症
- 5. 低タンパク血症

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

馬を剖検したところ、腸内腔に体長約 15 cm の〔図 16〕の寄生虫が認められた。

別冊 D 図 16

問31 この寄生虫はどれか。

1. 馬円虫 (*Strongylus equinus*)
2. 馬糸状虫 (*Setaria equina*)
3. 葉状条虫 (*Anoplocephala perfoliata*)
4. 馬バエ幼虫 (*Gasterophilus* spp.)
5. 馬回虫 (*Parascaris equorum*)

問32 この寄生虫に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 産卵数は雌 1 匹当たり 1 日 10 万個以上である。
2. 馬では気管型移行をおこなう。
3. ロバやシマウマにも寄生する。
4. サシバエが中間宿主となる。
5. 3 個の口唇が発達している。

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

犬、ペキニーズ、雌、6 歳齢。時に血尿がみられるとの主訴で来院。腹部 X 線検査をおこなったところ、腎臓に〔図 17 - A, B〕（A：側方像、B：腹背像）に示す異常を認めた。

別冊 D 図 17 - A, B

問33 次におこなう検査として適切でないのはどれか。

1. 排泄性 X 線尿路造影検査
2. 腹部超音波検査
3. 尿細菌培養検査
4. 血中 BUN、クレアチニン値測定
5. 腎生検

問34 本症例の腎臓病変に感染を伴った場合の特徴的な症状や合併症として適切でないのはどれか。

1. 発熱
2. 腹部疼痛
3. 黄疸
4. 播種性血管内凝固（DIC）
5. 敗血症

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、2歳齢。分娩1週間後に食欲消失し後躯蹠踉となった。初診時、体温40.5℃、心拍数120回/分、呼吸数80回/分で、皮温低下と顕著な眼結膜の充血が認められた。乳房の皮膚は〔図18-A〕のように変色し、触診では著しい腫脹と疼痛、熱感が認められた。乳汁中には凝固物がみられ、羊血液寒天培地で乳汁を培養したところ〔図18-B〕のような大小不同のコロニーが発育した。

別冊 D
図 18 - A, B

問35 原因病原体として最も疑われるのはどれか。

1. 大腸菌
2. 黄色ブドウ球菌
3. 酵母様真菌
4. プロトセカ
5. マイコプラズマ

問36 本症例に対する治療薬として適切でないのはどれか。

1. 高張食塩水液
2. 副腎皮質ホルモン剤
3. オキシトシン
4. メチオニン
5. 抗生物質

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

〔図 19〕は、1960 年から 2009 年までの我が国における、ある節足動物媒介性感染症の年間患者数の推移を示したものである。

別冊 D

図 19

問37 本感染症として最も適切なのはどれか。

1. 日本紅斑熱
2. オウム病
3. 発疹熱
4. Q 熱
5. つつが虫病

問38 本感染症に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 古典型は夏季の発生が多かった。
2. 新型は春～初夏と秋～初冬に発生している。
3. 新型の患者は北海道と沖縄を除く各地にみられる。
4. 予防のためにワクチンが使用される。
5. テトラサイクリン系抗生物質が有効である。

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、4歳齢。1時間ほど前に車にはねられたとのことで来院。起立不能であるが意識レベルには異常がなく、臀部の皮下出血以外には目立った外傷はみられない。〔図 20 - A, B〕は単純 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D
図 20 - A, B

問39 本症例に対する初期対応として適切なのはどれか。

- a 骨盤骨折に対する手術をおこなう。
- b 大腿骨骨折に対する手術をおこなう。
- c 排尿の有無を確認する。
- d 腹部超音波検査をおこなう。
- e 脊髄を中心とした MRI 検査をおこなう。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問40 治療する際、骨盤の機能を回復させるために重要な部位はどれか。

- a 左仙腸関節の離開部
- b 右寛骨臼の骨折部
- c 左腸骨骨折部
- d 恥骨骨折部
- e 坐骨骨折部

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

〔図 21〕は 2013 年 5 月に我が国のある国際空港で配布されたリーフレットである。

別冊 D
図 21

問41 ア に当てはまる国はどれか。

- a 中国
- b 台湾
- c メキシコ
- d オーストラリア
- e シンガポール

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問42 我が国の口蹄疫対策に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 平常時から定期的なワクチン接種がおこなわれている。
2. 水疱など特定の症状を発見した獣医師には届出義務がある。
3. 発生時には患畜や疑似患畜以外の家畜でも指定して殺処分できる。
4. 口蹄疫ウイルスの所持は許可制となっている。
5. 発生国からは加熱処理された稲わらを輸入している。

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

犬、ゴールデン・レトリバー、雄、7歳齢。元気・食欲の低下、運動不耐性、および腹囲膨満を主訴に来院。〔図 22 - A〕は胸部X線側方像、〔図 22 - B〕は心エコー図短軸断面像（図の一目盛は1 cm）、〔図 22 - C〕は同 Mモード像である。聴診では左心尖部に軽度の収縮期雑音が聴取された。

別冊 D 図 22 - A, B, C

問43 心エコー図所見として適切なのはどれか。

1. 心室内の腫瘍
2. 心筋の肥大
3. 心室中隔の扁平化
4. 心嚢水貯留
5. 心室壁の運動性低下

問44 最も疑われる疾患はどれか。

1. 僧帽弁閉鎖不全症
2. 肥大型心筋症
3. 心室中隔欠損症
4. 血管肉腫
5. 拡張型心筋症

課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

猫、雑種、10歳齢。重度の貧血を主訴に来院。血中猫白血病ウイルス抗原陽性であった。〔図 23〕は初診時の血液塗抹標本像（ライト・ギムザ染色）である。

別冊 D

図 23

問45 最も疑われる疾患、病態はどれか。

1. 再生不良性貧血
2. 播種性血管内凝固（DIC）
3. ヘモプラズマ症
4. 免疫介在性溶血性貧血
5. ハイツ小体性溶血性貧血

問46 本疾患の治療に最も適切な薬剤はどれか。

1. 免疫抑制剤
2. ヘパリン製剤
3. 抗生物質
4. 副腎皮質ホルモン剤
5. 抗酸化剤

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

〔図 24〕は、ある人獣共通感染症の世界的分布（灰色の部分）を示している。病原体はグラム陰性好気性、多型性の小桿菌で極染色性を示す。

別冊 D

図 24

問47 この感染症はどれか。

1. リステリア症
2. 野兔病
3. 鼻疽
4. 類鼻疽
5. レプトスピラ症

問48 この感染症および原因菌に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 届出伝染病に指定されている。
2. マダニによって媒介される。
3. げっ歯類の感染では短期間で敗血症となる。
4. ヒトの感染では髄膜炎や神経症状を特徴とする。
5. ヒトでの治療にはストレプトマイシンが有効である。

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

犬、雑種、雄、13歳齢。顔面の腫脹を主訴に来院。検査の結果、胸腔内に腫瘤がみられた。〔図 25 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D 図 25 - A, B, C

問49 この腫瘤の摘出を計画した。アプローチ法として適切なのはどれか。

1. 右第 3 肋間切開
2. 右第 4 肋間切開
3. 左第 3 肋間切開
4. 左第 4 肋間切開
5. 胸骨正中切開

問50 〔図 25 - C〕は摘出腫瘤の病理組織像（HE 染色）である。診断名として適切なのはどれか。

1. 胸腺腫
2. 食道腫瘍
3. 縦隔嚢胞
4. リンパ腫
5. 異所性甲状腺癌

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

犬アデノウイルス 2 型のウイルス液を培養細胞に接種した後、寒天を重層しニュー
トラルレッドにより染色したところ〔図 26〕のようになった。

別冊 D

図 26

問51 〔図 26〕に関する記述として正しいのはどれか。

- a *の数によりウイルス感染価が求められる。
- b 1つの*は1個のウイルス（1つの感染性単位）の感染により形成される。
- c *は生細胞である。
- d *の大きさは細胞の増殖に依存している。
- e *はウイルスがトランスフォーメーションを起こした結果である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問52 犬アデノウイルス 2 型およびその感染症に関する記述として誤っているのはど
れか。

- 1. ラットの赤血球を凝集する。
- 2. 呼吸器上皮細胞に細胞質内封入体が観察される。
- 3. 本ウイルス単独での病原性は弱い。
- 4. 予防には飼育施設の換気が重要である。
- 5. 本ウイルスの弱毒生ワクチンは犬アデノウイルス 1 型にも有効である。

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

〔図 27〕は狂犬病ウイルス粒子の構造を示したものである。

別冊 D 図 27

問53 a に当てはまるタンパク質の働きとして正しいのはどれか。

1. 転写や複製
2. 翻訳
3. ゲノム RNA の保護
4. 修復
5. ゲノム RNA の染色体への組込み

問54 狂犬病ウイルスに関する記述として正しいのはどれか。

1. エフェメロウイルス属に属する。
2. ネコに感染する。
3. 感染後は神経細胞内を遠心性に移動する。
4. 強毒内臓型と強毒神経型がある。
5. ヒトには弱毒生ワクチンが使用される。

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、雄、6ヵ月齢。前肢の向きがおかしく跛行するようになったとの主訴で来院。顕著な疼痛はみられなかったが、〔図 28 - A〕のように右前肢端の外反がみられた。〔図 28 - B〕は初診時の患肢単純X線側方像である。

別冊 D
図 28 - A, B

問55 画像所見として最も適切なのはどれか。

1. 橈骨遠位成長板の閉鎖
2. 尺骨遠位成長板の閉鎖
3. 肘頭の離断
4. 肘突起癒合不全
5. 橈骨骨幹端骨折

問56 本症例に対する外科的治療法として適切なのはどれか。

- a 橈骨頭切除術
- b 橈骨遠位のクロスピン固定術
- c 肘関節固定術
- d 橈骨骨切矯正術
- e 尺骨骨切術

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

馬、サラブレッド、雌、4歳齢。突然、歩行困難となり、立位で〔図 29 - A〕のような姿勢を示した。その後、加療するも起立できなくなり安楽殺となった。〔図 29 - B〕は右前蹄の剖面肉眼像である。

別冊 D
図 29 - A, B

問57 最も疑わしい疾患はどれか。

1. 裂蹄
2. 蹄叉腐爛
3. 蹄葉炎
4. 蹄癌
5. 白線裂

問58 〔図 29 - B〕の所見として適切なのはどれか。

- a 葉状層の剥離性損傷
- b 蹄叉に発生する異常角質
- c 蹄壁の一部の分裂
- d 白帯域の損傷
- e 蹄骨の変位

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

猫、雑種、雄、2歳齢。呼吸困難を主訴に来院。血中猫白血病ウイルス抗原陽性、猫免疫不全ウイルス抗体陰性であった。〔図 30 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：腹背像）、〔図 30 - C〕は採取した胸水の直接塗抹標本像（ライト・ギムザ染色）である。

別冊 D 図 30 - A, B, C

問59 最も疑われる疾患はどれか。

1. 膿胸
2. 猫伝染性腹膜炎
3. 胸腺腫
4. 乳び胸
5. リンパ腫

問60 本疾患に対する治療法として最も適切なのはどれか。

1. 強心剤と利尿薬の投与
2. 胸腔洗浄
3. 多剤併用化学療法
4. 腫瘍の外科的摘出
5. 低脂肪食の給餌

